

集団感染、報告相次ぐ

千葉・鋸南 特養の82歳死亡

広島県福山市の特別養護老人ホーム「福山福寿園」で7人が死亡した問題で、市保健所は新たに16人からノロウイルスを検出、ノロウイルスの集団感染と断定した。一方、神奈川県横須賀市や千葉県鋸南町の特別養護老人ホームなどでも、昨年末から今月にかけて、入所者や職員が下痢や吐き気などの症状を訴え、このうち鋸南町では82歳の男性が死亡するなど、感

嘔吐したあとがあったため、吐き出させようとしたがうまくいかず、11番通報した。町内の病

院に搬送されたが、間もなく死亡した。男性は1日に3回ほど、嘔吐をしていた。直接

の死因は窒息死との診断だが、嘔吐の原因が感染性胃腸炎の疑いもあり、因果関係を調べている。鋸南町は、発熱などの症状の集団発生については8日に県の安房健康福祉センターに連絡していた。同センターの職員や町内の医師が鋸南町を訪ねていったという。同苑は、職員による巡回の頻度を通常の2倍の15分に1回を増やすなどしたといい、「対応に不備はない」としている。

横須賀、46人に症状

高齡者施設の感染深刻

ノロウイルス 広島の特養調査委「人から人へ拡大」

高齢者施設などの入所者が嘔吐(おうと)や下痢症状などを訴える被害は十日も各地で報告され、千葉県で八十二歳の男性が嘔吐物による窒息で死亡した。七人が死亡した広島県福山市のケースについて調査専門委員会は、ノロウイルス(小型球形ウイルス)による人から人への感染が広がったとの見解を公表。宮崎や大阪でもノロウイルスによる感染症と判明し、厚労省が発症防止を呼びかけるなど、事態は深刻化している。

回復したか快方に向かっているという。

ウイルスを検出したのは、奈良のケースが六人



研究所感染症対 島県福山市)

茨城のホーム19人「可能性高い」
嘔吐・下痢を訴え

高齡者施設 感染性胃腸炎4100人に 死者14人ノロウイルス580人

全国の高齡者施設で相次いで発生している感染性胃腸炎の発症者は昨年十二月以降で四千百人を超え、関連が疑われる死者は十四人になっていることが十一日、分かった。現段階で発症者の一四%に当たる五百八十二人からノロウイルスが検出されている。

高齢者施設だけでなく、秋田、群馬、埼玉、東京、学校や幼稚園、病院などの施設でも千七百六十一人、神奈川、三重、京都、大阪、岡山、広島の一都道府県。

ずれの施設でもノロウイルスが検出されている。群馬県は十三施設で三百五十六人が発症し、うち一施設でノロウイルスが見つかった。高齢者施設で亡くなったのは広島県で七人、秋



イ央 (ロ山中 山県庁) 人が発症、うち一人が死

七毎首まで、他受

長を口頭注意すると